



No. 1

特集・婚姻制度をゆるがす

宣言 「女・エロス」編集委員会

特集 婚姻制度をゆるがす…

□ 女ひとりの生きかたこそ 小沢 遼子

□ 性の収奪

——女性から見た優生保護法——

飯島 愛子

□ 色情的に 芸術的に

——反結婚のエロス——

舟本 恵美

□ いま、初めて自分のために生きる

杉山 祥子

□ 月経ちぬ ——繋がっていく日常——

岩月 澄江

□ わたしの結婚

谷野ひろみ

グラビア 逢い・EYEそして愛

——ウーマン・リブ一九七一——一九七三 松本 路子

女の情況 ☆正体見たり！ 優生保護法

松村 幸子

座談会 性の状況

石田真理子／木村久子／佐伯洋子／舟本恵美／吉清一江

アメリカのリブの新しい波

——国際フェミニスト会議に参加して—— 吉廣紀代子

連載 ■女と文明⁽¹⁾■裁かれる女⁽¹⁾ 「妻の座」は何を守るか

——婚姻制度の内と外の

女に関する判例をめぐって—— 中島 通子

■女六法 ——民法第四編・婚姻——

■資料発掘・女の宣言⁽¹⁾

平塚らいてう・高群 逸枝

宣言

「女・エロス」編集委員会

今、ここに、わたしたちは何ものにも規定されない女であることを宣言する。

わたしたち女は、人間である前に女である。「女であるより人間であること」、「女の解放は人間の解放と同義である」——とする世の「民主的」・「平等的」言辞、わけ知り顔の、白々しい言辞を唯今、返上する。

わたしたちは、わたしたちが外ならぬ女であること、そのことによって、あらゆる社会的規定を受け、人間であることを否定してきた歴史と訣別する。そしてわたしたちが、何ものにも規定されない女であると宣言していくとき、そこにはあらゆる人間を包含しようとする意志がある。

社会的規定性の自縛から、自らを解き放とうとする女は、すべて無産である。自らの労働に依つて立たねばならない。

近代資本主義社会は、封建的支配階級にかわって新しきブルジョア支配階級を現出せしめた。それは農村と都市の分離を前提とする分業的生産・流通関係であり、その発展と共に膨大なプロレタリア階級を生んだ。

村は崩壊し、男と同様、女も都市に流出した。

わたしたちは、この流出した女たちの子孫である。そして今、わたしたちは労働をますます分化・分断させ、衰弱させ、無意義な生産へとかりたてるその元凶へ、日常的に一矢

小説

血まつり

☆姉妹からの便り（投稿）

☆女のミニコミ

☆アンケート・編集後記

☆表紙デザイン・題字／山内静香☆イラスト／薄奈々美
☆カット／草野むつ子・国井功子☆デザイン／飛鳥狂花

209 207 201 176 170 162 153

駒野 陽子

森光 洋子

☆家制度と未婚の母

高安イツコ

☆司法界と婚姻制度

☆女狙撃兵（映画・教育・育児）

テレビ・ミュージック・CM

209 207 201 176 170 162 153

むくいんがための戦術を探らなければならない時にきている。

わたしたちは、今、自らを社会的な自己限定の自縛から解き放とうとする無産のすべての女たちが、現実的に在る女||己れをはつきりと認識の対象にすることを、積極的に意義あるものとして評価する。女であることを原点とすることが、個々に分断しあっているわたしたち女の現状を、絶望も希望も深くこめて、現実的に把握できる契機をもつと考える。

わたしたちは、どれ程、お互い他人の生きざまにふれ合い、その生をいとしく感じあえる関係を持ちえているであろうか。そのような関係を日々に創りあおうとしているであろうか。

* * *

わたしたち女は、歴史的に、子供を直接に産み、育てる過程において、人間と自然へのいとおしみを豊かさとして継承している存在である。

わたしたち女が望むのは、あらゆる権力を排した社会である。眞の意味での、どんな差別もない、自由で平等な社会である。女が女としてそのままに、男が男としてそのままに、また自然は自然としてそのままに生きられる相互扶助の社会である。

このように正当な理想をわたしたちが求めるのは、日々の生活を圧迫し、わたしたち女をその都合のいいように規定することによって、生き長らえているものを直感し、激しく憎むからである。それは現在の私有財産制を基盤とする資本主義的生産関係であり、天皇制||身分制を頂点とした婚姻制度であり、それらを民主的イデオロギーとして持つ国家の、あらゆる権力機構である。

女がこれら国家によって、抽象的に規定されることを許すならば、女が男の補完的存在

であることに甘んじることになる。そうすることによって、権力と差別の蔓延に今より以上に加担していくことになるのだ。

ではどうするのか。わたしたちの第一歩は己れが△生き難い△と思ひ、△生き切つてい△ない△と思うその本心を、△生き切りたい△と渇まく願望を、己れ自身のことばに凝縮させることから始まる。

そこにはまず男が立ちはだかっている。婚姻制度をはさんで、男をはさんで、女という性をはさんで、分断しあっている女の社会的位置がはつきりと見えてくる。男の、国家のあらゆる価値観・女の規定性にのっかり、その代弁者・体現者を任じていなかつたか。そのようなものが女としての正当な存在であるとしはしなかつたか。

女たちは、今、眞の意味で、女としてのどのような社会的価値としての評価も受けておらず、またそれを保障する地位も持たない。これは、無産の、裸の女たちにとつてむしろ喜ばしいことである。だからこそ、今、ひとりひとりの女たちが、何のにも規定されない、無名の女としてはき出す己れの生の声こそ、新しい価値を創るために貴重な唯一の手がかりなのである。

女の性の歴史は、社会的な一重構造として分断された性の歴史である。それは、女が男と対であることによつて、対を開いていく関係を、辺境性としてしか育てることができなかつた歴史である。女は常に生と性を分裂させ、男との関係を、負の形態としてみざるを得ない意識と、同志的愛・恋愛的対関係を果してなく追い求める意識を交錯させ合う。ここに、エロス的交流による共同体の願望と、必然性の予見がある。それはまた、全労働における対意識の回復であり、その社会的形態の回復である。

また、それは、女の産むという性を、積極的に受けとめ、ひとりひとりの労働が、生産

が、眞の意味での、自由と平等を保障する豊かさの形態として実現していく社会でもある。

ならば今、今の己れの生と性の分裂の、ゆきつく先をじかと見届けてやろうではないか。

その無念の情念を蓄える方法を、女たちよ、探ろうではないか。そしてそれを骨の髓までしみわたらせて、次の世代の女たちに手渡そうではないか、女の文化を創っていこうではないか——。

* * *

この本は、すべて、女たちだけの手によって作られ、すべての女たちに解放されています。己れの位置をキッとみすえて、あらん限りの誠実さでもって、はき出しつくすことばを掲載します。そのようなことばによつてしまか女の眞の交流は生まれないと思います。

例え、今は、個々の男と疎遠になり、敵対関係を生もうとも仕方がない。まず女たちが己れの信念によつて歩み出し始めること、その信念を男たちに伝えようと努力すること。女たちひとりひとりの真摯なことばと自らの変革は、女たちだけにとどまらず、必ずや男たちにも伝わるだらうと確信しています。

さて、女たちよ、激しい権力拒否の不斷の運動として、意欲あふるる、厳しくも、楽しい自治コソミンを創立せよ！ そしてどんどん奮闘記をよせられたし！ それらの交流の場としてこの本を提供します。

また、今迄の女たちが創つていった運動と文化の資料発掘にも力をそそぎ、わたしたちが引きつがなくてはならない大切なものに出逢える機会を作りたいと思います。

(一九七三・一一・二)